

第15回 今後の県立高校の在り方検討委員会 議事録

日 時 平成29年11月30日（木）

13:30～16:00

場 所 サンラポーむらくも 彩雲の間

1 会長あいさつ

皆さん、こんにちは。いよいよ年の瀬を迎える頃になりました。きょうが15回目の会議となります。平成28年4月22日に初めてこの委員会を行い、それ以来きょうまで、幅広く、県内の高校だけではなく教育問題にも触れていただきながら、さまざまな議論を重ねてきたと少し感慨深く思っているところでございます。

いよいよあと数回の中で、提言をまとめていく段階になりましたので、本日は初めてその提言の内容を文言化したものをお示し、それについてご意見をいただくということになっております。まだ完全版ではありませんし、書けていないところもあり、部分的な内容のものになっていますが、事務局とも何回かやりとりをさせていただいて書き上げてきたものでございます。

次回12月14日の議論が一つの山場になろうかと思っておりますので、忌憚のない意見をいただきまして、本日と次回とでパブリックコメントをいただくにふさわしい中身にまとめていきたいと思っております。どうぞご協力のほどお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2 議事

[資料1を会長より説明]

<意見交換：検討に当たって>

○委員

「しまね留学」について説明が必要ではないか。「しまね留学」イコール県外中学校からの入学者数というのは、厳密に言うとは違うと思う。平成20年以前から、例えば一家転住であるとか一定数の県外中学校からの入学者はいた。以前からの一家転住等による県外入学者数と積極的県外募集による入学者数を区別しないと誤解を与えるのではないか。

それと、「県外生徒数は200人を超える勢いであり」と書いてあるが、200人を超えているのか。

○事務局

「しまね留学」と県外生徒の入学者数との関係についてだが、事業を始めた平成23年以前から県外からの入学者はいた。今行っている「しまね留学」はいわゆる「教育の魅力化」を通じて県外から流入してくる生徒たちを主に指していた。教育委員会内での表現としては、従来の事由で入ってきている生徒も含めて、島根の教育に魅力を感じ、その必要性を感じて入ってきた者として「しまね留学」を捉えている。

○委員

平成29年のデータはどうか。

○事務局

平成29年は、平成28年と同じく184名である。

○肥後会長

では、200人に迫る勢いであるという表現にする。志としては超えても良いが。

○委員

1 ページ下から3行目のところに「真の学力」とあるが、真の学力という言い方は、学習指導要領では使っていないので、ここは学力の3要素という表現に直したほうが良いと思う。

○委員

2 ページの一番下の(2)だが、私は繰り返し言ってきたが、移住定住対策と教育は結びつかない、結びつけてはいけないと考えているので、この書き方では納得できない。

○肥後会長

何回か発言しておられるので、私どもは理解するところだが、これは県教育委員会の観点なので、県教委が委員と違う考えをお持ちならそれでも良い。

○委員

アドミッションポリシーという表現が使われているが、大学で使っているアドミッションポリシーとは入学要件であり、こういう力を持っている人は入学してよろしいという内容をアドミッションポリシーと言っている。こういう生徒を育てるということをアドミッションポリシーという言葉で表すのは、表現として間違っていると思う。

○委員

大学では確かにアドミッションポリシーという表現は一般化しているが、高校ではアドミッションポリシーという言い方は、あまりしないと思う。大学で捉えるのであれば全然問題ないと思うが、高校について考えるのであれば無くても良い気がする。

○肥後会長

いわゆるアドミッションオフィスがあつての話なので、それが無いのにアドミッションポリシーと言っても仕方がない。大学教育で通常に使われている言葉は外したほうが無難かもしれないので、「求める生徒像」という言い方のほうが良いかもしれない。

○委員

教育再生会議から中教審の話を経て、高大接続答申を受けて云々とあるが、2020年に向けて教育が大きな転換点にあることを県民に強く訴えたい。そういう時期の中での在り方の検討なのだということを何らかの形で表現したほうが良い。

○委員

1 ページに、現在の再編成基本計画の話があり、1 学年 4 学級以上 8 学級以内が望ましい学校規模と書いてあるが、29年 4 月における募集学級数の平均は3.77にとどまっていると書いてある。現在の再編成計画にあるこの1 学年 4 学級以上 8 学級以内という望ましい学校規模を今後どう考えるのかを議論する必要があるのではないか。学校規模は関係ないか、そうではなく学校を維持するためには一定限の規模が必要であると改めて示すのか。現行の再編成計画の基準が維持できていない現状をどう見るかについても、提言の中に盛り込むべきではないか。

○肥後会長

現行計画の中に細かい基準が書かれているが、その基準について全く触れないで通り過ぎることは難しいので、そこを今後どんな形で、例えば残すのか残さないのか、必要なのか不必要なのか、その辺については意見をいただいて、どういう書き込みが良いのか、やはり検討すべき課題の一つだと認識している。

○委員

テーマの一つである生徒数の減少も踏まえて、人口減少時代という大きなダイナミズムがあると思うので、そのニュアンスと教育改革のダイナミズムが表現に入るとより良いと感じた。

<意見交換：提言1>

○委員

「小さな高校」ならではとあるが、小さな高校の定義は何か。提言1の内容が全部小さな高校に通っている生徒についての話であって、島根県全体をカバーする話にはならない内容だと私は捉えているが、その捉え方で良いか。

○委員

私もその辺の捉え方を整理しないといけないと思っている。提言1の4ページに「こうした教育の魅力と可能性を全県に広げるとともに、全国に発信できる」とあるが、全国に発信することは結構だと思し、全国の離島・中山間地域に広げることの意味があると思う。しかし、これを全県に広げるということは、小さな学校だけでなく、ほかの学校にも広げるという意味であり、この全県に広げるということが、どういうことなのか私にはよく理解できない。

○肥後会長

積極的県外生徒募集を行っている高校が19校あるが、学校規模は高校によって違い、所在地も中山間地ばかりとは限らない。念頭に置いているのは、この19校が取り組んできた成果を全県の高校で共有する観点で書いている。

それから、全県に広げるとはどういうことなのかについては、魅力化校が取り組んできた効果の上がる教育方法や教育課程は、それ以外の高校でも参考になる部分があるのではないかという意味合いで書いている。このやり方を全県でやりましょうと言っているわけではなく、そういう教育の手法なり、教科横断的な教育の在り方なり、ほかの地域でも新しい学びにつながるきっかけになるのではないかという意味合いである。

○委員

「小さな学校」と書いてあるが、小さな学校とはどのような学校を指すのか。現行の再編成計画にある4学級以上8学級以内が望ましい学校規模という観点からいうと、魅力化事業を実施している学校の多くは3学級以下であり、望ましい学校規模という基準は、取り下げるのか、一応確認したい。

○肥後会長

「島根県では離島・中山間地域を中心に高校魅力化プロジェクトを推進し」と表現している。だから、こういう高校のことを書いており、提言なので、余りきっちりと定義したものにならないように書いたつもりである。正確に読んでいただければ、曖昧と言われるかもしれないが、一定の意味に落ちるように書いているつもりである。逆に、どう書いたら良いか伺いたい。

それから、高校の望ましい学校規模については、どこかで詰める必要があり、これについては議論したいと考えている

○委員

なぜ全国に発信することを目的にしないといけないのか気になる。小さな学校のことし

か書いてないと私には読めてしまう。だから、小さな学校でこれまで積み上げてきた成果を全県展開するという意味であれば通じると思うが、書いてある内容は魅力化高校の教育に関することである。これを松江の普通科高校に当てはめてこの文言が使えるかという、それは使えない。だから、これは全県の高校をカバーしている提言にはなっていない。それをなぜ提言1という大くくりの中で掲げるのか釈然としない。

○委員

魅力化校に勤務したことのある校長の立場として言うが、魅力化事業の成果はあったので、成果を生かすと書けば良い。県外から今184名の生徒が来ているが、全国から来てもらうには全国に発信しない限りは分かってもらえないので、成果について書くことは必要である。島根県内の高校は、小規模の学校が圧倒的に多い。魅力化を実施した学校の成果を生かすと書けば良いと私は考えている。小さな学校だけの話をしているとは考えていない。

○委員

都会のマス教育から見れば、島根の高校は圧倒的に小さな高校と言えらると思うので、大きな教育効果をキーに、小さな高校と対比しての観点だと私は感じている。

○委員

魅力化の取組による成果を県下で共有する、活用することは必要だと思うが、魅力化の成果を全県で展開するとなると、それこそ膨大な事業費、財源を確保しなければいけない。それは教育委員会が考えることだから、この委員会では理想論を書くというのであれば良いが、一方で、ある程度現実的な視点も持っておかなければいけないのではないかと思う。

○肥後会長

教育成果が上がっているという発言があったが、それが具体的に何かという話はあまり整理されてない。よく言われるのは、入学者数が増えた、進学実績などがあるが、それが教育成果なのか。そこで育ったものが何だったのかということはもう少し時間が経ってからわかる面があるから、今、教育効果が何かを発信する、活用するといっても、具体的に何なのかと言われると少し難しいところもあると思う。しかし、それに意味があるものとして魅力化事業に取り組んできたわけであり、それなりの活性化も図られてきたわけなので、教育の魅力や可能性あるいは成果を全県で活用するという書き方は必要である。

全国に発信する話は、「しまね留学」のホームページがあり、それぞれの高校が何に取り組んでいるかが書いてあって、既に発信しているので、こういう書き方をしている。

○委員

でも、発信は基本的に手段であって、目的が大事なので、何のために発信するのか、そこをもう少し目的に近い表現にすると良いと思う。

さきほどの財源の確保は大切である。コミュニティースクールを見て感じるが、これからの選択肢、可能性として、単に税金だけに頼るのではなく、クラウドファンディング、ソーシャルインパクトボンド、ふるさと納税などバラエティーに富んだ財源調達を考えることも選択肢としてあっても良いと感じた。

○肥後会長

財源の工夫を図るべきだとか、県の予算だけに頼らずに学校独自の予算を確保することも大切であると提言に書くことは良いと思う。

○委員

5番目に県外や国外からも広く生徒を募集すると書いているが、国外といった場合、例えば日本人学校に通っている生徒のことなのか、それとも国籍に関係なく広く募集をすることを指しているのか。今、魅力化事業で留学生を受け入れている実績はあるのか。

○事務局

まだ実現はしていないが、隠岐島前高校で検討しているのは、外国籍の生徒を留学ではなく、入学という形で受け入れることができないだろうか、県教委と調整している。そういう方向性を持って取り組んでいるし、短期留学は現在も積極的に取り組んでいる。

○委員

大学も多面的な評価をせよと言われ、研究を進めているが、「調査研究を進めていくことが必要であり」というのは、主語は誰なのか。

○肥後会長

県の教育委員会に向かって提言をするので、教育委員会を中心に検討してくださいと申し上げている。

○委員

「狭義の学力のみにとどまらない」と書いてあるが、狭義の学力とは、いわゆる知識・技能を意味しているのではないか。誤解のない表現が良いと思う。

続けて、「生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等は多様化しているため」と書いているが、私だけの認識かもしれないが、生徒の多様化は進んでいないと思っている。主体的で対話的で深い学びができる環境を提供するという観点でいうと、深さが今だんだんなくなっているのではないかと思っていて、深さということと多様化ということは少

し捉え方が違うのかもしれないが、本当に生徒は多様化しているのか、私は問題意識を持っていて、皆さんが多様化だとまとめられたら、それをおかしいと言うつもりはないが、個人的にはその部分がどうかと思っている。

○肥後会長

深く意味を考えて、本当に幾つも幾つも数え切れないくらい多様なものがあるかと考えると、必ずしも多様化という言葉が適切ではないという指摘は、そのとおりだと思う。興味・関心はひよっとしたら多様化していないかもしれない。進路希望はどうか。一個一個考えていくと、これだけ並べたときに全部をまとめる言葉として仕方なく多様化と言っている面はある。

○委員

生徒が多様化しているから、いろいろなことを考えなければいけないという文脈であれば良いと個人的には思う。

○委員

価値観の多様化は社会的にも前提として言われているので、そういうニュアンスの生徒の多様化、価値観の多様化というのは、現代の一つの特徴だと感じている。

○委員

子供たちと、自学スペースが少ない話をよくしている。これは松江市内のことだが、子供たちが、土曜日・日曜日等の学校が休みのときに、勉強する場所の確保に苦勞しているようだ。寒い中、県立図書館等に行っても勉強する場所が確保できず、勉強する場所を探している様子は、保護者または地域の大人として気になっている。そういった自学スペースの確保についても、提言に盛り込むことは可能か。

○肥後会長

魅力化というよりも、もう少し広いところでの話、要するに主体的な学習をしようと思ったときに、その環境をつくる必要があるという話なので、少し広い構えのところを書いたほうが良いと思う。

全体的に書いていて少し足りないと思ったのは、生徒の主体性が発揮できるということをあまり書いていない点が気になっている。生徒が主体性を発揮する、例えばコミュニティースクールを大人だけで運営するのではなく、高校生の意見を反映できるようにする、生徒会活動でも良いが、高校生が学校運営に対して主体性が発揮できるといったことを書いてみても良いのではないかと思うが、その辺はどうか。

○委員

生徒の声が反映できるような仕組み、やり方、生徒の主体性が発揮され学校運営にも声が反映できる、そういったところも少し加えると良いと思う。

○委員

もっと県外の生徒を受け入れていくとうたっているが、留意することとして、生徒数拡大が目的ではないとある。中学校からの要望としては、実際県外から生徒が入ってくることで、地元の生徒が行けなくなっている実態もあるので、少し触れていただきたいと思う。県外生徒の受け入れが地元中学生の進路選択に影響を与えている現実も踏まえ、少し考慮をする必要があるとか、あるいは地元中学生の進路選択に影響を与えないよう配慮が必要とか、そういった一文が入るとありがたい。

○委員

提言1全体を通じて、基本的にいわゆる魅力化推進校での取組の成果が上がっているの、それをさらに推し進めていきたいと思いますという応援歌のような位置づけなのかと思っている。今、魅力化校の中では小・中・高との連携とか、一貫性に取り組まれているが、それをどう生かすのか、どこまで踏み込むのか確認したい。

○肥後会長

必ずしも十分に議論してきたところではないが、既に予算的に人員を配置し、連携を図る仕組みを今年度から始めているので、その方向性を支援するのであれば、具体的に一歩書き込んだほうが良いと思う。もし異議がなければ、地域の高校の魅力化だけではなく、小中一貫した教育体制をつくることにより、教育成果を上げていくという書き方を加えても良いかと思う。

○田邊副会長

美郷町内には高校がない。昨日、美郷町教育魅力化推進協議会を開催した。小・中を中心に高校へつなげていく、教育の魅力化を、美郷町の魅力化を図り、最終的には定住につなげていきたいと考えている。3校の魅力化コーディネーターにも入ってもらい、ぜひとも小・中・高を通して魅力化を図っていくべきだと考えている。

さきほどから議論になっている全国発信については、19校がそれぞれ魅力化に一生懸命取り組み、生徒数が増えてきたわけなので、この成果を全県に広げ、全国に発信していくことはとても大事だと思っている。

○肥後会長

先ほど生徒自身の主体的な参画という話をしたが、もう一つ、書いたことをいつまでに

やるか、いわゆるアクションプランをつくるよう提言しておく必要があるのではないかと
思っている。同時に何らかの検証をかける必要があるのではないかという提言をしたほう
が良いと思っている。アクションプランと効果検証、成果検証、この両方を書いた方が良
いと思っている。

○委員

ほかの取組を見てきて、こういう提言や答申が出て、その後何も起こらなかった、そう
いう絵に描いた餅になったケースも見てきたので、実効性のあるものにするという意味で、
会長の意見に私は賛成である。

〔提言2骨子を肥後会長より説明〕

<意見交換>

○委員

中学生の進路選択のところで、「将来なりたい自分」、「夢をかなえられそうな」と書
いてあるが、高校生が大学を選ぶ、進路を考えるときに、しばらく前までは、こういう職
業につきたいからこの学部に行くという流れがあった。次の段階として、自分はこういう
学びを深めたいので、この学部、学科という流れがあった。今の高校生の流れは、自分は
こういう課題、社会が抱えている課題にチャレンジしたいからといった課題選択型の進路
選択が多くなる、つまり既存のものではなくて、自分のキャリアをクリエートする上での
進路選択が多くなると思っていて、高校の進路指導はそうあるべきだと思っている。中学
校ではなかなか難しいかもしれないが、なりたい自分という表現がどうなのか、この表現
は、職業を意識しているのではないかと思うが。

○肥後会長

職業を意識しているわけではない。

○委員

今、魅力化校を中心に各学校で取り組んでいるPBL型、地域課題研究などを促進する
ことを書いても良いのではないか。これは、SGHといったハイパーに特化したものでは
なくても探求型学習は今後必要になってくる。これは個々の教科でもやらなければならない
ことだが、その象徴的なものとして、PBL型授業を促進することが主体性の醸成につ
ながるのではないかと思っている。

○肥後会長

課題選択型とかキャリア形成型の進路選択という話は、どこかに入りたい気持ちはある

が、逆に言うと、そう書いたときの受け皿のイメージが持てるか、つまり高校入試がそのようにできるか、そのような意味での学科編成ができていないか、そのあたりはどうか。課題探求型の学びができると書くことはできるが、科目の選択や教育方法の話であって、それをしに、この高校へ来てください、この学科へ来てくださいというレベルにまでできるか。

○委員

大学入試がそうなっているせいでもあるが、現行では文系と理系とに分かれている。今後、文理融合型の探求学科をつくる必要があるのではないかと考えている。

○委員

提言2の中段のところに、「中学校においては、その重要な意味を踏まえた進路決定となるよう進路指導を行っているところであるが、「近いから」、「人も行くから」、「特に目的はないけど」、「なんとなく」といった消極的な動機であっても高校に進学できてしまう進路選択環境には、やはり一定の課題があると言わざるを得ない」という表現があるが、確かにそうだと思いながらも、さまざまな進路希望を持ちつつも、住んでいる地域に1校しかない、2校しかない地域では、その中で選択せざるを得ない子供が多い。地域の子供は地域で育てたいという思いもあって、保護者としてもそれは応援したい、そうあってほしいという思いもある。この表現は難しいというか、少しひっかかるので、少し表現が変わらないか。

○肥後会長

今の発言は大変そのとおりだと私も思いながら書いている。前段のところで、入試倍率を操作することによって、中学生の学習意欲を変化させることは良いことではないと書きながら、では、学習意欲を変化させずにこのままで良いのかについては、やはり一定の課題があるという書き方をした。

○委員

関連するが、平成29年度入試の倍率が0.96倍とあるが、この1倍を割っている状態が10年以上続いていると思うが、10年以上も1倍を割っている状態が続いているのは、私は異常と見るべきではないかと思う。もう少し入学者選抜を意味あるものにすべきと思う。

○肥後会長

倍率と学習意欲に関係があるわけではないが、島根県の入学者選抜の倍率の状況はそのとおりである。直ちに学習状況というよりも、多分子供の人数の問題や一定の規模がないと教育ができないなど、さまざまな要因によりこの数字が10年以上続いているのではない

かと思う。

何倍なら妥当なのかについては、提言には書きにくい。事実としては1倍を割る状況が何年続いていると書いたほうが良ければ書いても良いが、そういう状況にあることを書いて、どうするのか。

○委員

去年までは、第2志望校制があったので、単純に10年以上続いているとは言えないと思う。10年以上続いていると書くことには疑問がある。

以前も議論したと思うが、一番問題なのは松江市内の通学区をどうするか。それからいわゆる内申書と入試の比重の問題で平成15年から全く変わっていない。専門高校だったら内申が6で試験が4、(大社高校)体育科の場合だと7:3であり、推薦に近いような枠が決められている。いわゆる比重の自由化をある程度進めることが必要である。

○肥後会長

県下で同じ学力試験をして、その比率をどうするかという話だが、ここでの提案はそれ以上のことを申し上げていて、県下統一の問題で入試を行うかどうかも含めて考えてください、学科やコースで欲しい学力をはかるべきで、そのことを明示した上で独自の入試をされたらどうかと提案している。入試の中身としては、当然ながら学力を問う試験問題をどうするか、面接でいくのか実技でいくのか、それとも小論文でいくのか、その比率をどうするかも含めさまざまな組み合わせがあって良いし、要するになぜその入試をするのか、なぜそういう生徒が欲しいのか、各校で工夫してはどうかという提案である。

通学区の問題については、提言の3のところでも触れていくことになる。

○委員

「全ての県立高校において、育てたい生徒像に基づき・・・魅力化・特色化を図ることが重要である」とあるが、それぞれの学校が異なる必要があるのか。

例えば、普通科高校でいえば一番東に安来高校があり、一番西に益田高校があるが、地域が東西で違うから、大きく違ってしかるべきと考えるのか。また専門高校にしても、例えば松江商業高校と浜田商業高校がそれぞれ大きく違うのが当然なのか。その地域によってあまり特色を出し過ぎると、それこそ地域の学校に行く意味、魅力がなくなってしまう。全部の学校を対象に特色化を強く出すと一体どうになってしまうのか気になるが、そのあたりはどうか。

○肥後会長

普通科であれば普通科で良いのではないかという言い方も成り立つし、そのほうが安心

して行ける高校だという言い方も成り立つという指摘だと思う。私も基本的には全くそのとおりだと思うが、普通にあって普通に、「近いから」、「人も行くから」、「特に目的はないけど」とならないよう、特色、目的などを一度問い直し、定義し直すという提言をしているつもりである。だから、変に特色を打ち出さなさいと言っているのではなく、学校の目標に掲げていることはもちろん掲げられても良いし、中学段階の全ての平均的な学力を満たしていることが重要だということを入試要件としても良いし、そういう入試をしますと言われれば良いと思う。

ただ、地域別でこの問題を見たときに、例えば松江市の場合、今後高校に進学する人数が減っていく中、等質等量のまま3校が必要かという議論に対して、今までの言い方で耐えられるかという議論になるので、その前段としてこれを出していると理解していただければ良いと思う。

○委員

「推薦入学において」とあるが、推薦入学だけなのか、一般入試でもこういうことを求めた試験にするのか。大学ではまさに今こういう問題と直面していて、全ての試験で3要素を問えという流れの中にある。大学の話をすると、アドミッションポリシーで各大学が特色を書き、それに応じた試験が行われている。少し先の話かもしれないが、試験対応という意味で高校側が相当苦慮される事態が発生する、提出する書類も変わってくる、そういった事態が高校入試でも行く行くは生じると思っている。

○肥後会長

現在の中学3年生が大学を受験する年に向かって大学入試改革が今進められようとしているので、工程表を考える必要があると言ったのは、そういう理由もある。入試の問題は中学生にとって非常に大きな問題なので、高校入試がこう変わるという話をするのであれば、どの学年からそうなるのかについてかなり早目に周知しないと、中学校の教育問題としては非常に大きい。しかもその後に各高校が教育内容や教育課程あるいは募集定員も枠組ごと調整することをオープンにする時期がいつなのか、それを受けて、中学生たちがどう対応していくのか、例えば中3になってから言われても困るわけであり、少なくとも中学校に入学するときには、そのことが明らかになっている必要がある。工程表を具体的につくっていく必要があるので、この話はとても大切である。

○委員

「近いから」、「人も行くから」という表現だが、明確な目的を持たなくても入れてしまうことが問題だと言われているが、でも、もしかしたら子供にとってはそれが一番の理

由ということもあり得るので、例は挙げず、明確な目的もなく、消極的な動機であっても入ることができる進路選択の環境が課題と書いても良いのではないか。

それから、各高校からもう少し中学生に向けて情報発信をと書いているが、今もしっかり発信しているので、もう少しトーンを落とした書きぶりとした方が良いと思う。

また、各高校が中学生に向けて情報を発信すべきとあるが、保護者という言葉も入れてもらいたい。

○委員

入試の原点に返って、入試倍率が1倍を切っている入試の意味というか、本質というか、入試のあるべき姿としてどうか、私は問題意識を持っているので、その点に触れる必要があると思う。

定時制、通信制については、学習困難の生徒へのサポート体制を整えることは、すごく大事であり、どこかに加えてほしい。

○委員

この内容をまとめられた会長はすばらしいと思う。内容がすごく詰まってきたと感じている。しかし、「目的はない」、「近いから」の表現だが、それが子供たちの目的だったりすることがあるので、消極的な表現ではない方が良いと思う。

○委員

「近いから」というのは、東部と西部では価値観というか、考え方が違うと思う。また、「特に目的はないけど」という表現だが、15歳で自分の進路はこれだと決めて進む子供は少ないと思うし、高校3年間でいろいろな選択をすることも大切なので、消極的な動機だけでも良いのではないかと感じた。

3 閉会あいさつ（片寄教育監）

ありがとうございました。旧暦の10月ということで、神在月でございます。皆様方が全国から集われた八百万の神々に見えると、そういった思いで議論を聞かせてもらってありがとうございました。

提言に近づく議論に入りますと、学校経営の未来ある教職員たちは、これを見ながら、自分が校長だったらここをどのように具現化するかを考えながら聞いていただろうと思うし、そうであってほしいと思いながら拝聴していたところです。

次回の提言をまとめていただく会には、35校の校長、教頭が全て出席する傍聴席を用意

する勢いが欲しいと思ったところですが、それはなかなか難しい。ただ、それほどこの議論をしっかりと見る、聞く必要性があると思いました。もちろん議事録は公開しますので、それをもとにまた具現化の方向性をたどってくれば良いとは思っております。長時間にわたりありがとうございました。きょうで20カ月が終了いたします。また次回以降もご協力いただきますようお願いを申し上げます、閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。